

★今週の聖句

「与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる」
ルカによる福音書 6:38

★ ねらい

- ・与えることはうれしいこと。
- ・見返りを期待して「与えること」が大事なのではない。
- ・他者を受容する。
- ・自分は神に受容されている。

★ 説教作成のヒント

- ・「人を裁くな」は、直前の36節から発生してくること。「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」神が憐れみ深い、だから、あなたも…という順序は、常に大切。愛することの前提は愛されていること。
- ・「人を罪人だと決めるな」は、「裁くな」ということを説明しているもの。6:27—36の敵を愛しなさい、と同じ考え。
- ・私たちが他者に寛容である以上に、神様は私たちに対して寛容、寛大でいてくださっている。
- ・「与えなさい」は、「赦すこと」の文脈にある。「与えること」とは、神の愛に根ざし、与える、その内容も神の愛である、つまり、赦されていること、受容されていることである。
- ・「盲人」の隠喩について。「与えれば、戻って来る、戻って来るから与える」という原則で生きる人、力には力で対抗する人、他者を裁く心でいつもいる人等。（反対は、神の愛を知るゆえに、その愛に生きようとする人。）「二人とも穴に落ち込む」という風刺は興味深い。
- ・「師」は、イエス・キリスト。
- ・「偽善者」は、ファリサイ派の人々だけでなく、弟子たち、つまり私たちに該当し、耐えず人を裁かないように注意を払う必要がある。

★ 豆知識

- ・「押し入れ、揺すり入れ、あふれるほど…」これは、終末における神の寛大さの表現で、それを受けることができることが念頭にある。
- ・「ふところに入る」は、パレスチナのすその長い衣服を広げるとたくさん物が入るから。

★ 説教

日本のことわざに「情けは人の為ならず」というのがあります。「人にやさしくするのは、人のためにではない。自分のためなんだよ。人にやさしくすると、それがいつかは自分に返ってくるのだから、自分のために人にやさしくするんだよ。」そういう意味の言葉です。

「与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。」今日、イエス様は言われています。この言葉も、さっきのことわざが言っているのとおんなじで、結局は、自分にいいことが返ってくるのだから、「与えなさいよ」と言われているのでしょうか。そうではありません。

少し難しく言うところになります。「与えなさい。そうすれば、すでに与えられていることが、あなたに与えられる。」となります。難しいので、言い換えると、こういう意味です。「与えなさい。そうすれば、神様があなたにたくさんのよいものを与えてくださっているということが、分かるでしょう。」ということです。与えることを通して、神様が与えていてくださることを知るということです。

たとえば、お友達が持ってるお菓子を分けてもらったら、うれしいですね。こんどは、自分が持ってるお菓子をお友達にあげたら、お友達はうれしいですね。お友達がうれしそうにしてたら、うれしくなりません。自分もうれしくなりますね。もらえることもうれしいけど、あげることもとてもう

れしいのですね。

そのことを教えてくれたのがイエス様です。イエス様は、私たちに愛をたくさん与えてくれているのです。イエス様は今も私たちにやさしくしてくださっています。私たちをとっても大好きでいてくださって、いつも一緒にいてくれているんです。イエス様の十字架は、そのイエス様の思いが一番分かるようになったしるしです。証拠です。その十字架の赦しで、私たち一人ひとり悪いところも全部含めて赦してくださっているのです。言い換えれば、ありのままの私を受け容れてくださっているのです。あなたがあなたであるということ、〇〇くんが〇〇くん、であること、〇〇ちゃんが〇〇ちゃんであることが「よい」、神様はそう言っておられるのです。

だから、私たちもお友達を大切にします。愛されているからです。私も愛されているし、お友達も愛されている。それぞれに足りないところがあります。できないところがあります。だけど、それでいいんです。なぜって、神様がそのままの姿を受け容れていてくださるからです。

だから、人を悪く言うのをやめましょう。自分に悪いことをしたお友達も赦しましょう。私も赦されているからです。そして、仲良く過ごしましょう。助け合うのです。認め合うのです。一緒に喜んだり、一緒に考えたりするのです。そうすることが、神様が一番喜ばれることです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は” どもさんびか” (日キ版) より

129番

106番 (改訂版)

話してみよう

- ・ 人を裁くことがあるか。どんなことで人を裁くか。
- ・ なぜ「人を裁く」ということを人間はするか。
- ・ 「人を裁く」ことによる結末にどんなことがあるか。

やってみよう

あまのじゃく game

聖書を反対の意味にとれるように読んでみてごらん

人をさばけ そうすれば 自分もさばかれる

人を罪に定める そうすれば 自分も罪に定められる

ゆるしてやるな そうすれば ゆるされない

- ・ 大きな紙に書いたり、小さな紙に自分で書いたりして神さまの世界の考えと反対の世界をのぞいてみよう
- ・ 子どもたちがとても悲しい世界になってしまうことを知る体験
- ・ 自分の心の中にある人に対する小さな小さな悪い実のこを見つめてみよう。

↓

でもでも 神さまはみんなが大好き 安心していいよ! というメッセージ

★暗唱聖句

「ひと言おっしゃってください。
そして、わたしの僕をいやしてください」
ルカによる福音書7章7節

★ねらい

・

★説教作成のヒント

- ・ 6節bの百人隊長の友達の言葉は、謙嬢の言葉。ユダヤ人にとって異邦人は汚れた者で、自分の家に迎え入れることは、そのユダヤ人であるイエスに汚れを及ぼすことになる。それを避けるため、また謙嬢の心で語っている。異邦人との接触が「汚れ」を与える、というのは、ユダヤ人の側の一方的な考えである。言わば、身勝手に、おごり高ぶりの規定である。けれども、そのユダヤ人の間の風習を認め、思いやる気持ちをこの百人隊長は持つ。その習わしに沿うように事を運ぼうとすることは、考えさせられるものがある。
- ・ 百人隊長の頼みは、自分のためではなく、部下のため。
- ・ 8節は、イエスの言葉の権威への信頼の表れ。イエスは神の権威の下にあって、また、その権威を行使する、ことを認識している。「権威ある者の言葉が下に伝わる徹底さ」を百人隊長自身も知っていたし、主の権威もその言葉のみで徹底的に成されることを信じていた。その信頼にイエスは感心する。
- ・ 異邦人への福音伝播は使徒言行録にあるように使徒に託される。ここは、その萌芽としてある。
- ・ 異邦人である百人隊長が助けを求め、一生懸命に手を尽している姿、ユダヤ人の長老に頼み、また友達に頼んでいる姿に部下への愛情が表れている。
- ・ 病んでいる人や苦しんでいる人の苦しみや悲しみに共感する人々の姿に注目していることはルカの特徴である。例 7：11以下（大勢の人が悲しむやもめに付き添うやさしい気持ちを持った人々の記載） 5：17以下（人々の愛情からの必死な姿）他の福音書と微妙に違う。それらの人々の他者のための必死さ、叫びに対して主がお答えになる、そして、また主ご自身もその思いを抱かれているであろうが、それが結果いやされることになる。

★豆知識

特になし

★説教

（周りの人々のやさしい心に焦点を当てたい）

今日の聖書で出てきます百人隊長というのは、ローマの国の軍隊の100人の兵隊をまとめる、言ってみれば偉い人でした。その人の部下（その人に仕える人）が死にそうな病気になっていました。隊長はとても心が痛みました。どうにか病気が治るように必死に祈りました。そこへイエス様が通られることを聞いて助けを求めます。けれども、ローマの人とお付き合いすることは、ユダヤの人にとってはよくないとされていました。そこで、隊長は、そのユダヤの人の気持ちを大切にして、人に頼んでイエス様に助けてくれるように一生懸命考えてしました。まず、知り合いのユダヤの人の長老の人にイエス様に頼んでもらいました。その頼みを受け入れてイエス様は助けに向かわれました。その途中で、隊長の友達に来て、イエス様のお言葉だけいただければありがたい、病気の人はずっとそれだけで治ると伝えました。この考えは、隊長の考えでした。隊長が友達にそうイエス様に伝えるように頼んだのです。それもまた、イエス様はユダヤの人だったので、自分たちローマの人の所に来たら、イエス様にとって申し訳ないという思いからだったのです。

イエス様は、この隊長の思いと、そしてイエス様なら助けてくださることができるという信頼の気持ちをとても喜ばれました。そして、隊長の部下は「元気になった」と聖書は伝えています。

イエス様は、人を元気にすることがおできになります。そのことを百人隊長は信じました。そして、

いろいろな人に助けてもらって、イエス様のお力をいただくことができました。

今日、私たちが考えたいのは、百人隊長がいろいろな人に助けてもらうことを一生懸命して、そして、そのいろいろな人（長老、友達）も、その隊長の気持ちを大事にして、一生懸命になって協力した、ということです。なぜ、そういうことができたのでしょうか。それは、思いやりです。苦しんでいる人、困っている人を、どうか助けてあげたい、という気持ちだったのです。その気持ちをイエス様は分かってくれたださった。そして、助けを与えてくれたのでした。

私たちの周りには、困っている人がいるでしょう。その人のつらい気持ちを感じる心をみなさんは持っているでしょう。自分ひとりでは、その人を助けることができない場合もあります。でも、いろいろな人の力をいただいて、力を合わせて、どうしたら助けてあげられるか一緒に考えることができます。私たちは、一人で悩むのではなくて、みんなで助け合っていきましょう。イエス様もそのことをとても喜んでくださるのです。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

6 番

3 2 番（改訂版）

話してみよう

・ イエス・キリストによって元気になるということが起こったこの記事だったが、今回は死にかかっている人が元気になった。「主によって元気になること、主が私たちに元気にしてくださること」について、「どうして主は元気にできるか」という観点から話し合ってみる。子どもの感性で、どんな意見が出てくるだろうか。この物語からだけでは難しいが、今まで教会学校で聞いたり、学んだりしたことから自由に話し合ってみる。

・ なぜ、救いがユダヤから出なければならなかったか考える。キーワード「罪の赦し」

やってみよう


父の目を覚えて

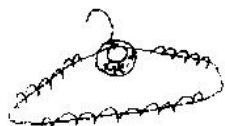
おうちのお父さん、おじいちゃん、おじさん、近所の大好きなおじさん・・・などなど
お世話になっている人に優しい心のおくりもの
よろこんでくれるかな？ きっとよろこんでくれるさ



木製ハンガー・・・ポスカなど油性マジックで絵やメッセージなどペインティング。カラフルなハンガーにへんしん！



ワイヤーハンガー・・・リボンや布(5cmくらい)をまいて  を書いてプレゼント



*ハンガーは 100 円ショップなどで購入してください。クリーニング屋さんのワイヤーでもOK

★暗唱聖句

イエスは、「若者よ、あなたに言う。起きなさい」と言われた。 ルカによる福音書 7 章 14 節

★ねらい

- ・ この若者の蘇生は、私たちが復活の命に与ることができるしるしである。そして、それは主の復活に基づいている。

★説教作成のヒント

- ・ 夫に死に別れた女。ただひとり息子だけがいた。その子は彼女の生き甲斐だった。深い悲しみがある。
- ・ 13 節「憐れに思い」 主はこの女の悲しみをご自分の悲しみとされた。
- ・ 「もう泣かなくともよい」泣く、悲しみしかない、すべては悲しみで終局するということが覆されるものがある、だから、泣かなくともよい、ここで主は希望を提示される
- ・ 主はご自身から葬列に近づき、「棺に手を触れられた」これは律法で禁じられている行為で、理由は穢れると考えられたから。主はその禁を破る。
- ・ 死者は生き返った。これは、主の復活に依る私どもの復活の予兆である。

★豆知識

- ・ ナインはナザレの東南 10 km 離れた町。

★説教

ひとりの女の人の子どもが死んでしまいました。彼女は、夫が死んでしまっていて、たった一人の息子と一緒にふたりで暮らしていました。この子どもの歳は何歳だったかは書かれてはいません。何歳だったにしろ、お母さんはとつてもその子を愛していました。そして、その子と一緒に暮らすことは、お母さんにとって心の支えでした。その子がいるから毎日元気が与えられていたと思います。その子がすくすくと育っていくことが一番うれしかったのです。その子が死んでしまう。お母さんは、とてもとても悲しくて、涙がとめどなく流れて泣いていたのです。

そこへイエス様が近づかれました。そして、そのお母さんの深い悲しみを見つめられました。イエス様は、そのお母さんの悲しい気持ちを目にして、そのお母さんの気持ちと一緒にになりました。とても悲しくなったのです。そして、お母さんがどんなに悲しいだろう、寂しいだろうと思われたのです。イエス様はそれほど心がやさしい方でした。人の気持ちを自分の気持ちとして持たれる方なのです。

イエス様はお母さんに言われました。「もう泣かなくともよい」と。「大丈夫だよ」そういうふうに、言われたのです。

悲しみにある人に、「大丈夫だよ」と言うことはできるでしょうか。それは、とても難しいことです。私たちには、その言葉が言えないと思います。一緒に悲しむことはできるかもしれませんが。一緒に寄り添うこと、その人が元気を取り戻すまで一緒にいることはできるでしょう。けれども、「大丈夫ですよ、もう泣かなくともいいのですよ」ということはできないでしょう。

この言葉は、イエス様だから言うことができた言葉です。言い換えれば、神様の言葉なのです。人間が語れる言葉ではなくて、神様が語ってくださる言葉なのです。少し難しいことですね。違う言い方をするならば、イエス様にしか言うことができない言葉というものがあるということなのです。私たちは言うことはできない、けれどもイエス様には言うことができる言葉です。少し難しいことを言いますと、私たちの中から出て来る言葉ではなくて、私たちの外側から語りかけてくださる、神様の言葉というものがあるのです。

私たちが教会学校に来ていますね。ここでは、神様の言葉を聴きますね。たとえば、「私はもうだめだ。もうどうすることもできない。」という気持ちだったとします。そしたら、神様が「大丈夫だ

よ」と言ってくれれば、どういう気持ちになるでしょうか。神様が守ってくださる。その神様が「大丈夫だよ」と言ってくれれば。そんな時、私たちの心は「大丈夫と守ってくださる神様が言ってくれている」と思って、だから「大丈夫だ。神様に信頼していこう。そういつてくださる神様におまかせして進んでいこう。」そういう気持ちになる、元気を与えられる、ということが確かにあるのです。そういう気持ちになったことはありますか。もしもまだだったら、きっとこれからあります。先生もそういうことが時々あります。

日曜日に神様の教会に来て、お話を聴いたりしていると元気になることが確かにあるのです。続けて教会に来て、一緒に神様の言葉を聴いていきましょう。

聖書に戻ります。この子どもはイエス様の言葉で生き返りました。この物語が教えてくれることは、今言いましたことです。つまり、イエス様がその言葉で元気にしてくれる、立ち上がらせてくださるということを教えてくれているのです。

そして、もうひとつだけ言います。イエス様が復活なされたことは聞いたことがあるでしょう。イエス様が復活なされたということが教えてくれることは、私たちも復活することができるということなのです。少し難しいですね。私たちは、誰でも「死」というものを経験しなければなりません。いつかは、私たちも死ぬのです。これは確かです。けれどもです、それでは終らない。私たちにも復活の命というものがイエス様から与えられているのです。人間は死にますが、天の神様のもとでの新しい命が私たちを待っているのです。この地上での死は、神様の国での新しい命の始まりなのです。

今日の聖書の物語は、そのことを教えようとして書かれました。絶望に終らない、希望がある。そのことを教えてくれます。どうぞ、このことを心に覚えていてください。それが、私たちを励ましてくれるのです。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

119番

114番（改訂版）

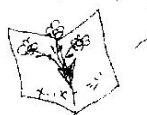
話してみよう

・ 人間では語り得ない言葉が、神様の言葉として書かれている聖書を開いてみましょう。ルカによる福音書であれば、6章20節以下、マタイによる福音書であれば、5章の説教は、参考になります。

やってみよう

- ・ 6月は花の日の行事の月でもあります。教会の中で1人で暮らしている方、お年を召した方、近所の病院に入院されている人、老人ホームに暮らしている人のことを覚えます。
 - ・ 私たちが自分のことばかりでなく、人のために何ができるかを考える時になります。
- * 高学年の子どもたちは何が自分たちで贈りたいか考える時間があってもいいかもしれません。
- * 幼い子にはキットをつくっておくとのりで貼るだけでむずかしいことはありません。

（教会に制作が好きな方、得意な方がいたら先生とし参加していただきましょう）



花のポップアートカード…モールや画用紙を使って飛び出すカード
（メッセージや聖句をそえて）



花束をつくる…折り紙、画用紙造花用の紙を用いて花をつくります



かざりもの…紙皿の中心をくりぬき、折り紙、画用紙などで切り抜き貼る。
リボンをかけられるといいです。

→次の週

★暗唱聖句

イエスは女に、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われた。

ルカによる福音書7章50節

★ねらい

- ・ 神様に赦されていること、受け容れられていることを心に留める。

★説教作成のヒント

- ・ ファリサイ派の人シモンが主を招いたのは、「主はどういう人間だろうか」という単なる興味からだろう。彼は、主を、お客に招いたが、足を洗うこともせず、頭の香油を塗りもしない。つまり、大切に主を扱わない。
- ・ 「罪深い女」の主への行為は、シモンを不愉快にする。
- ・ 47節：彼女の愛の行動は神の赦しを受けている者としての具体的な表現。彼女はただ主に愛を向ける。そのように行きして、赦しを頂こうというような心ではない。それは、相手が赦す、赦さぬに関わりなく愛する愛である。そして、この愛は、神の愛と重なる。人間の如何によってその愛を変えることなく、ひたすらに愛し続ける神の愛と憐れみを示す。それは、見返りを要求しない愛である。

★豆知識

- ・ 罪深い女は、娼婦であろう。
- ・ 中近東では客のいる家に他人が勝手に入って来ることは普通のことだった。
- ・ 足に接吻して香油を塗るのは、その人に対する深い尊敬のしるし、また感謝のしるし。「足を涙でぬらし」痛悔と愛の溢れる心を表す。

★説教

今日のお話の中で、イエス様がたとえ話をされています。お金を借りている人が2人いました。1人は500万円、1人は50万円とします。2人とも返せませんでした。返すお金がなかったのです。そこで、貸している人は「もう返さなくていいよ」とゆるしてあげました。2人とも返さなくてよくなってとても喜びました。そのお話をして、イエス様は、2人のどちらの人がたくさん喜んでしょうか、どちらの人が返さなくていいよと言ってくれた人にありがたいなあと思ったでしょうかと聞かれました。皆さんはどちらだと思いますか？そうですね、500万円もたくさん返さなくていいよ、と言われた人のほうがたくさんありがたいなあって思いますね。

今日の聖書には、女の人が出てきますね。この人はたくさん悪いことをしてしまっていました。さっきのたとえ話では、500万円の借金がある人のほうです。だから、そういうたくさん悪いことをした自分を赦してくださるということは、この女の人にとってものすごく嬉しかったのです。だから、涙が出てきて、その涙でイエス様の足をきれいにしようとしたのです。

シモンさんという人が出てきます。この人がイエス様をお家にご招待したのです。だけど、足をきれいにする水をくれたりもしませんでした。この人はファリサイ派という団体の人でした。この団体の人はまじめな人たちです。立派な生き方をする人たちです。善いことをたくさんします。だから、自分は立派な人間だ、と勘違いしてしまう危険がいつもありました。実際に自分のことをそういうふうに立派だと思っていた人もいたでしょう。善いことをすることはいいことです。でも、そこには危険があります。勘違いしてしまう危険です。自分は立派だとうぬぼれてしまうのです。この人は50万円返さなくていいよと言われた人のほうでしょう。

シモンさんと女の人。どちらの人が自分を赦してくれて、受け容れてくださっているということ

たくさん感じるでしょうか。女の人ですね。

私たちはたくさん赦していただかなければならないのです。それが本当です。うそのことは、自分はそんなに悪いことはしていないよと思うことで、本当の自分がわかっていないのです。

たくさん悪いことをしてしまう、そういう私たちを神様は赦してくださって、受け容れてくださっています。そのことを神様にありがとうございますの気持ちで過ごしていきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

53番

119番（改訂版）

話してみよう

- ・ 「受容の受容。＝（神に）受容されていることを（私たちは）受容する」（P. ティリッヒ）という言葉について考える。
- ・ 「理想的な人間を、ではなくて、あるがままの人間を神は愛し給う。」（D. ボンヘッフアー）という言葉について考える。
- ・ 今日、この時代の中で、この「神の受容」の持つ意味について考える。
- ・ 善い行いは、神が行う業であることを考える。それに関して、マタイ 25:31 以下の話で、「いつ、…しましたか」と言う人について参照し、考えてみる。

やってみよう

いよいよ訪問！

家を訪ねたり、ホームや病院（もちろん事前に連絡）に行って、プレゼントをわたしましょう。この時、あかるいあいさつと歌のプレゼントがあると大変喜ばれます。（玄関などでうたっちゃおう）

自分たちのできる小さな小さなことがこんなに喜んでもらえるという体験をすることでかえって自分たちが嬉しくなってしまうという気持ちを味わいます。